

障害者スポーツを「したい」「支えたい」

宮城県障害者スポーツ協会では、さまざまな競技の体験教室を行っています。また、障害者スポーツを「する」以外にも、ボランティアや指導者などの「支える」方も募集しています。

障害のある人がスポーツ活動を行うには、多くの方々の理解と参加が必要です。
「障害のある人と一緒にスポーツを楽しみたい」、「スポーツ大会などのお手伝いをしてみたい」と思っている方は、ぜひサポートの仕方などを身に付けていただき、宮城県内の障害のある人のスポーツ活動を支援してください。

キッズ・サポート・プログラム運営ボランティア

障害のある子どもがのびのびと運動できるイベントを県内各地で定期的に開催しています。障がい者スポーツ指導員や大学生と一緒に活動していただけるボランティアを募集しています。

初級障がい者スポーツ指導員

障害者の継続的なスポーツ活動を支援するため、以下の①～③の活動をしていただける方を募集しています。(全4日間の講習会を受講する必要があります)

- ① 障害者にスポーツの喜びや楽しさを理解してもらうよう指導・支援
- ② 初心者へのスポーツとの出会いの機会を提供
- ③ 地域における各種競技大会などの運営協力

初級障がい者スポーツ指導員養成講習会

対象／県内在住で18歳以上の方

内容／障害に関する基礎知識や指導方法などを講義や実技を通して学びます

受講料／5000円



☎(一社)宮城県障害者スポーツ協会
☎022(257)1005
✉kensupo1988@poplar.ocn.ne.jp

東京2020大会をきっかけに大きな前進を
宮城県障害者スポーツ協会 小玉理事長にお話を伺いました。

障害者スポーツの普及の動き
当協会では、スポーツ大会やスポーツ教室の開催、指導員の養成などを通して、選手としての競技力の向上、障害者スポーツの普及・振興に取り組んできました。

障害者スポーツの捉え方や在り方が大きく変わったきっかけは、1998年パラリンピック長野大会の成功でした。それまで、医療的リハビリテーションの一環と考えられてきましたが、それ以降、障害者スポーツへの関心や認知度が飛躍的に高まり、全国にたくさんの方々が種目別団体ができるなど、支援の輪が大いに広がりました。

宮城県の現状
いつでもどこでも、誰とでも、障害のある人が活動できるスポーツ施設が不足しています。そこに行けば用具があり、仲間や指導者がいるという環境をどう整えていくかが大きな課題です。

また、学齢期の子どもたちが通う特別支援学校で課外活動としてスポーツに触れる機会が少なくなっている現状があります。早い段階からスポーツを通して運動経験を積み、健康や身体を動かす喜びを仲間と共に増やしてほしいものです。

アダプテッド・スポーツとしての広がり
障害のある人のスポーツは決して特殊で特別なものではありません。障害があるために、気を付けたり、やっちはいけないことが少しあるだけです。そのためルールを変えたり、つくったり、用具を工夫したりして楽しめるようにしています。アダプテッド・スポーツ(適応されたスポーツ)はこのように、それぞれの多様な違いに適応させ、

工夫したスポーツのことで、老若男女、誰もが取り組めるものです。

現在、県内24市町の52カ所に総合型地域スポーツクラブがあります。近年、そこで障害者スポーツのイベントを開催し、地域の皆さんと共にアダプテッド・スポーツに触れる機会を増やそうと取り組んでいます。

東京2020大会への期待
首都東京で開催する東京2020大会は長野大会を上回る好影響をもたらしてくれるものと大いに期待されます。その盛り上がりを一過性のものとせず、障害者が当たり前に活動できる環境整備、継続的な支援体制をつくること「レガシー」にならなければなりません。そのために私たちも引き続き障害者スポーツの魅力と必要性を発信していきたいと思えます。

メディアを通して露出度が高まり、関心や興味を持った多くの人が一歩二歩と足を踏み出してくれるかどうかが重要です。「自分もやってみよう」「関わってみたい」と思う人が増えることが、スポーツの振興のみならず、地域の活性化、ひいては共生社会の実現への確かな前進に繋がっていくのではないかと考えています。

☎障害福祉課 022(271)2541



(一社)宮城県障害者スポーツ協会
理事長 小玉 一彦さん
(東北福祉大学教授)

障害者スポーツをみんなで楽しもう

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、東京2020大会)を来年に控え、障害者スポーツへの注目が集まっています。

障害者スポーツは、障害者がスポーツを楽しむために、障害の種類や程度に応じて、既存のスポーツのルールの一部を変更したり、障害によってできない部分を補うための用具を使用したりすることで、安全に行うことができるよう工夫されています。また、近年では、障害の有無や年齢などに関係なく誰でも楽し

めるスポーツとして注目されています。

東京2020大会では、22のパラリンピック競技が採用され、県内のトップアスリートたちも、大会に向け準備を進めているところ です。

宮城県では、宮城県障害者スポーツ協会を通じて、県内の障害者スポーツの普及と振興に取り組んできました。協会には、40を超える団体が所属しており、それぞれ普及・強化に努めています。

車いすバスケットボール (東京2020大会パラリンピック競技)

脊髄損傷や切断など下肢に障害がある選手が車いすに乗って行うバスケットボールで、ルールやコート、リングの高さ、ボールなど、一部を除いては一般のバスケットボールと変わりはありません。

低い位置からの美しい放物線を描くシュートや、巧みな車いす操作、素早いパスワークなど、車いす同士の激しい攻防が魅力です。

県内ではクラブチーム「宮城MAX」が昨年の日本選手権で前人未踏の11連覇を果たしました。東京2020大会での活躍が期待される選手も在籍しています。



宮城MAXの皆さん

シッティングバレーボール (東京2020大会パラリンピック競技)

シッティングバレーボールは、下肢などに障害のある選手が座ってプレーする競技です。6人制バレーボールとほとんど同じルールですが、常に床にでん部(脚の付け根から上の部分)をつけた状態でプレーするため、コートは6人制バレーボールよりも小さく設定されており、ネットも座った状態でスパイクが打てる高さになっています。

スピード感あふれるラリーやコンビネーションを駆使した戦略的な戦い方が魅力のスポーツです。

東京2020大会では、イタリア共和国の「ホストタウン」である仙台市で、イタリア代表の事前合宿が行われる予定です。



昨年仙台市で行われたイタリア女子代表チームと市民との交流

パラカヌー (東京2020大会パラリンピック競技)

パラカヌーは、脊髄損傷、下肢切断、片麻痺、二分脊椎などの下肢に障害のある選手が参加する競技です。

水上に設定された真っ直ぐなレーンで、競技用の「カヤック」や「ヴァー」*を使用して、200mのスプリントタイムを競います。

パドルをこぐ選手たちの力強さ、カヌーのスピード感、ゴール前のデッドヒートなど、迫力満点の競技です。

東京2020大会では、チリ共和国の「復興ありがとうホストタウン」である加美町で、パラカヌー選手団の事前合宿が行われる予定です。

*片側に浮力体がついたカヌーで、より安定性がある。



昨年加美町で行われたチリ選手団事前合宿の様子